

## 市川昂高校 国際交流の取組

### 1 目的

本校は県内の県立高校初のユネスコ・スクール認定校である。ユネスコ・スクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のことである。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコ・スクールをESDの推進拠点として位置付けている。現在、世界180か国以上の国・地域で11,500校以上のユネスコ・スクールがある。日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年(DES D)」が始まった平成17年から飛躍的に増加しており、市川北高校と統合する前年の平成22年に市川西高校が加盟した。「持続可能な開発のための教育」(ESD)を推進するにあたり、たった一つのかけがえのない地球を永遠に存続させるための生活実践ができる生徒の育成を目的として、「国際平和は身近な地域の和があってこそ」という理念の下、統合して11年目を迎えた現在も国際交流、地域交流、キャリア教育に力を入れて取り組んでいる。

### 2 準備・実施段階の工夫

昨年度は新型コロナウイルス感染症のため、多くの学校行事が中止となった。今年度においても地域との交流については、お祭り等が中止となったこともあり実施できなかったものが多かった。しかし国際交流については、コロナ禍においてもどうすれば感染防止対策を徹底しながら実施することができるかを関係団体と検討しながら準備を進めて実施へと漕ぎつけた。

本校の国際交流については、ユネスコ・スクールに加盟してから現在に至るまで市川昂高校初代校長 齊藤孝先生の御尽力によりユネスコ・スクール協力関係団体として東京都池袋に所在する日本語学校「メロス言語学院」と連携し、同学院に在籍し日本語を学ぶ留学生と交流事業を行っている。今年度は10月に1学年生徒全員と留学生との国際交流会、6月と11月に3学年韓国語・中国語選択生徒とそれぞれの国からの留学生とで語学交流会を実施している。

### 3 交流会の様子 【国際交流会】



- ・留学生が2つのグループのどちらにするかを決めるため、班長と4人でゲーとパーで分かれることに。当然ゲーとゲーが同じグループになることを説明しましたが、どのタイミングでゲーやパーを出すかまで説明しておらず、なかなか一斉に出せず。こんな所でも国ごとの風習の違いを体験することができました。



- ・前半は予め用意していた質問を順番に留学生にしました。日本語で質問するグループもあれば、英語で質問したり、回答に更に質問したりするグループもありました。また、国の代表的な食べ物や、お祭りといえば思い浮かぶものについて質問し、「へえ～」という反応があちらこちらから聞こえてきました。



- ・後半はグループ毎に折り紙をしたり、カードゲームをしたりしました。折り紙では定番の鶴を作成しました。折り方をゆっくり説明しながら、一緒に折り紙をしました。留学生はもちろん初めての経験でしたが、生徒のなかに一緒に教えてもらっている者もいました。

### 【語学交流会】



- ・6月に開催した1回目の語学交流会の様子です。メロス言語学院からそれぞれ2名の留学生に来てもらい交流しました。まだ6月ということで韓国語や中国語を使って交流という訳にはいきませんが、まずはお互いの国の様々なことを紹介し合う様子が見られました。



- ・中国語の授業の様子です。留学生に教科書を読んでもらい、その後続けて読みながら、正しい発音について学びました。年も近いせいか留学生に積極的に質問する様子が見られ、繰り返し何度も何度も発音練習をしていました。



- ・別の日に韓国語選択者の女子生徒がチマ  
チヨゴリ体験を男子生徒がバジチヨゴ  
リ体験をしました。千葉韓国教育院の協  
力で生徒全員分を準備していただきま  
した。生徒は初めての体験で自分の好き  
な色のチヨゴリを選んで着ていました。

#### 4 成果

国際交流会については、1学年生徒にとって留学生との初めての交流だったが、積極的にコミュニケーションをとろうとする生徒の姿が見られた。また、英語を使って異文化について理解しようとする生徒もいた。

言語交流会については、予定していた2回目が緊急事態宣言発令中だったため、やむを得ず中止した。3回目は11月下旬を予定している。1回目の交流時よりも韓国語・中国語を用いたコミュニケーションが取れるようになっていくことを期待したい。

SNS等で簡単に他者とつながることができる時代に、実際に対面して交流できたことに生徒達の表情から大きな意味があると感じた。また、韓国語選択者の中の1名が11月に開催される千葉県韓国語弁論大会に挑戦したり、更に深く学ぶため大学の韓国語専攻へ進学したりする生徒も出てきている。

#### 5 今後の方向性

現在は1学年のみで行っている学年単位の交流事業を、以前実施していたように他の学年でも行えるよう実施形態を模索中である。またその際には、生徒が主体的に企画内容について考えることにも取り組んでいく必要があると考えている。今後は、国際交流を更に発展充実させていくために、生徒のニーズを把握するための調査等を実施し、継続的な交流の在り方や年間複数回の交流会を実施することなどについて検討していきたい。そのためには既存の生徒のユネスコ委員会と職員のユネスコ推進委員会の組織としての活動を活発化させていくことが重要である。また、来年度からは校内にWi-Fiが整備され、今後オンラインで交流できる環境を整えば、対面とオンラインでの交流の実施に向けて関係団体と連携しながら準備を進めていきたい。

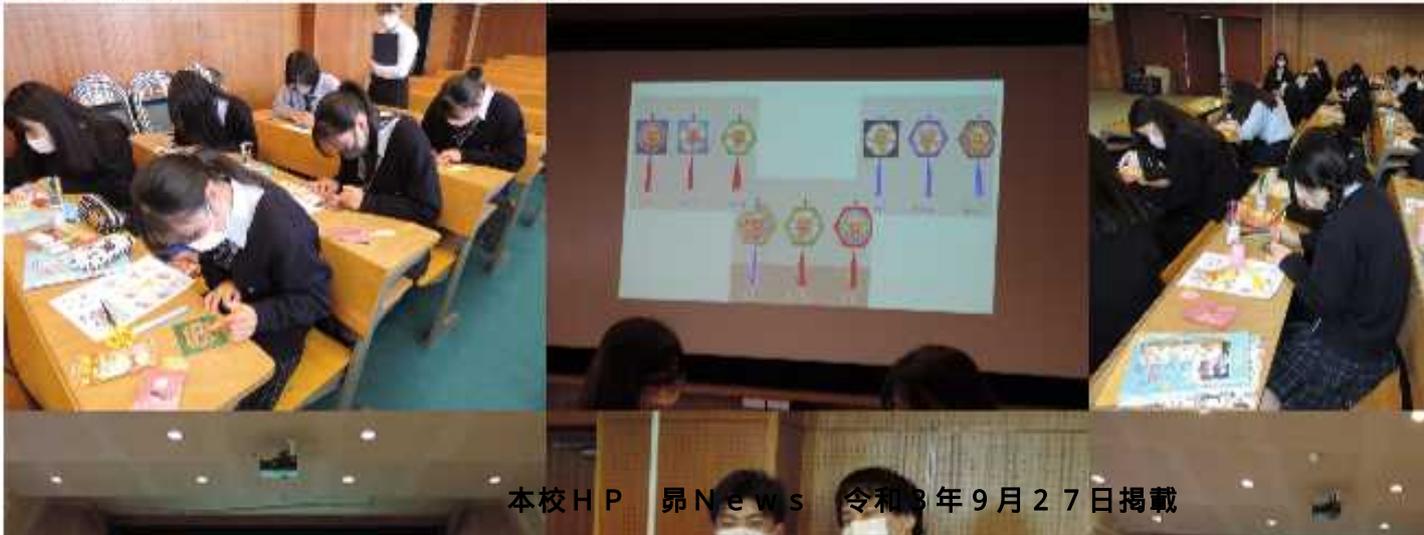
地域交流については、来年度からの新学習指導要領の中に家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携について示されているように、withコロナの時代を見据えて、何ができるのかを地域の方々や近隣の幼保小中大と情報交換しながら検討していきたい。

## 市川昂高校 国際交流の取組

本校ホームページにその日学校であった出来事などを記事にしている「昂News」というページがある。そこで国際交流の様子について掲載した。

### 2021/09/27 韓国語の授業

今日は韓国語の授業に外部から3名の方が来校し、視聴覚室でいつもとは違う授業を行いました。5限はお面を自分の好き色で塗り最後にお面をつけて完成しました。みんなとても集中して丁寧に色を塗っていました。ボタンにひっかけていた女子もいました。6限は女子はチマチョゴリを男子はパジチョゴリを着る体験をさせました。このことでパジはズボンのことだそうです。勉強になりました。全員分のチョゴリを持ってきていただいたおき、とても貴重な体験をさせていただきました。



### 2021/10/28<sup>NEW</sup> 1学年国際交流会

1学年生徒がメロス言語学院の留学生と交流会を行いました。1クラスを2教室に分けて密にならないよう、1人が1人という9人でグループをつくりました。日本語が上手な留学生もいて日本語でコミュニケーションがとれていたグループもありました。校長先生に背中を押され英語を使っでのコミュニケーションにチャレンジする生徒もいました。1年生にも積極的な生徒もいて盛り上がっているグループもありました。異文化理解ということで食べ物についてや生活習慣についてここをスタートにして更に交流を深めていくことも検討していく必要があるなと感じました。今日の様子です。

